



道政かわら版

RYUICHI KITA DOUSEI KAWARABAN No.21



迎春

2017 新年あいさつ



北海道議会議員
喜多龍一

あけましておめでとうございます。旧年中は後援会活動や地域課題への取組みに際し、ご指導・お引き回し等にご多大のお世話になりました。特に八月の二連の台風による被害を受けた皆さんに心からお見舞い申しあげます。また被害への対応では、被害状況の把握や現場の案内等で大変お力添えをいただきました。心から感謝いたします。

さて、昨年の「道政かわら版」のご挨拶の最後に「(今年は)何が起きるかわかりませんが」と書きましたが、一昨年の十勝平野の大豊作から二転、六月～七月の天候不順による大凶作と、八月十六日～三十一日の二連の台風による未曾有の大災害で、十勝の山林、農業、町、人命、浜・漁業に甚大な被害をもたらした、大きな爪痕を残しました。

水道、商工業、農・林・水産業、河川・道路等の、道と市町村分の被害総額は、全道千九百五十三億円、うち十勝八百九十三億円で四十五・七％。因みに、水道施設は五十三・八％、農業関係は五十三・二％、河川道路等の公共施設は四十五・七％と、過半を占める被害が十勝に集中しました。秋の第二回定例道議会で、千六十五億円(融資枠分四百十億円含)災害補正予算を議決し、史上最高額の災害予算となりました。

今回の災害は、台風にな慣れない私達北海

道・十勝に、堤防の基準等、原型復旧から改良復旧の必要性や、台風等が上陸・直撃する前に、土嚢・樋門の作動確認・避難所の鍵や電気等の確認など、時間で事前準備をしていく、いわゆるタイムラインの必要性など、多くの教訓を残しました。

日高山脈越への大動脈は高速道路及び国道二七四号の上下と、JRです。JR石勝線は十二月に開通しましたが、約四ヶ月弱の不通は、人・モノの動きに大きな打撃をもたらしました。国は昨年十二月二十九日、国道二七四号日勝峠を二〇一七年秋を目標に復旧させると発表。高速道路の四車線化とともに、将来にわたり国道二七四号・日勝峠を強い道路にすることが、十勝はじめ道東のみならず北海道にとつての重要課題と考えています。

さて、目を転じて、世界も大きく変化した年でした。

英国のEUからの離脱、戦後七十年にわたつて米国とともに西側の自由と民主主義の秩序を築いてきた西欧諸国で強まっているトランプ大統領就任への不安。こうした世界の動静が我が国やアジアに、お隣の半島情勢や中国の動向などとあいまって、今後どのように影響してくるか、ますます目が離せません。

また、国内では、政府の規制改革推進会議の即時廃止や貯金・融資などの信用事業を行う農協の半減、指定生乳生産者団体制度の変更を求め、自己改革が進まない場合は、「第一全農」を設立するなど対抗措置を講ずべきと提言。結果は収まるどころに収まりはしたが、私は中川一郎先生の秘書となつてから四十年、様々な政策変更を見てきたが、

今回のような、これまで営農を支えてきた根幹を並べて、ばつさり切る提言は初めてで、今回の提言の仕方に怒りを感じました。

本道では、日本ハムのミラクル大逆転リーグ優勝と日本シリーズ優勝は、駒大苫小牧高校が甲子園の深紅の大優勝旗を、津軽海峡を越えて持ち帰った時に次いで、道民の心がひとつになった快挙でした。またコンサドーレJ1昇格もありました。

リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックでは、十勝から陸上の福島千里、マウンテンバイクの山本幸平、女子七人制ラグビーの桑井亜乃、パラリンピック女子水泳五〇m:二〇〇m:四〇〇mの帯広育ち帯広盲学校出身小野智華子の四選手が出場。福島・山本・桑井の三選手と、冬季オリンピックの高木菜那・美帆姉妹の幕別町出身現役五選手が町に集結し、町内小中学生との競技体験交流会とトークに参加。小野選手もチームメイトと帯広で強化合宿をするなど、次に繋がるこれらの活動は今後の教育に、そして選手たちの今後や地域にとつて大きな意義があります。幕別町の江陵高校古谷優人君が、プロ野球ドラフトでソフトバンク二位指名もありました。

様々なことがありましたが、被災者の皆さんに接して感じるのは、苦しい中にも皆前を向いていることです。逆に力と勇気を頂いています。

本年が、十勝復興の力強い一年となりますよう、ともに頑張つていきたいと思っておりますので、変わらぬご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶と致します。

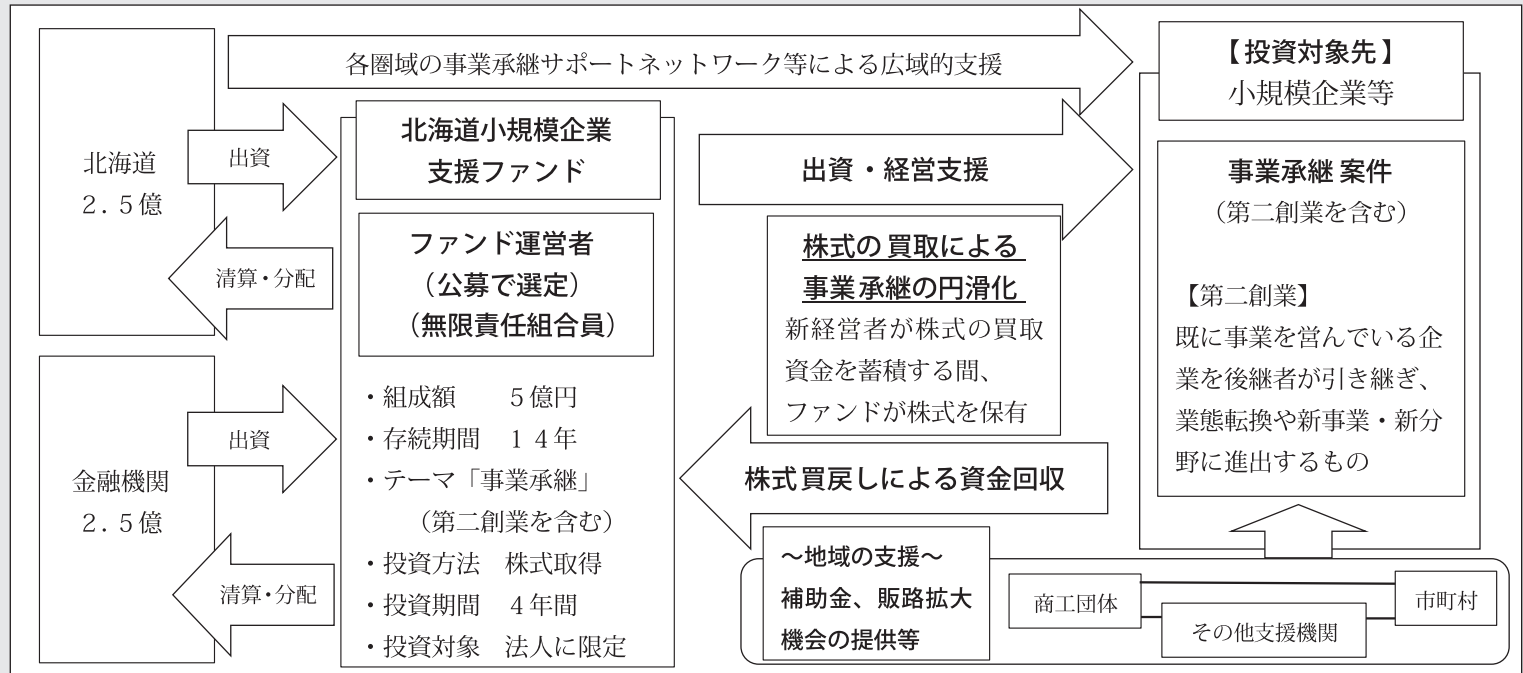
TOPICS-1 北海道小規模企業支援ファンド(仮称)

- 道は平成27年、国の小規模企業基本法制定を受け北海道小規模企業振興条例を制定。これに基づき、本道の中小企業153,000社の9割を占める133,000社の小規模企業の後継者不在率が全国一の72.8%、代表者の半数が60歳以上となっている現状から、事業承継支援策に取り組むこととし、昨年度内六圏域において事業承継を支える仕組みづくりと支援体制や人材育成をスタート。
- ファンドについては、昨年10月第三回定例道議会で、ファンド組成のための道の出資金2.5億円(債務負担行為)を議決。

1. ファンド組成の考え方

地域の経済・雇用を支える小規模企業の事業活動の継続を図るため、官民連携の資金供給ファンドを組成し、円滑な事業承継支援事業の成功事例づくりを行う。(女性・若者・UIターン者、地域資源の活用などに配慮)

2. ファンド組成のイメージ



3. スケジュール

平成28年度：ファンド(投資事業有限責任組合)の組成 ⇒ 平成29年度～平成32年度：出資 平成42年度：事業終了

- 現在ファンド運営者を公募中。年度内にファンドを立ち上げ、投資開始は29年度から32年度までの4年。新経営者による株式買取まで10年以内を想定。管理運営費を除き、約4億円の投資規模。とすると1社平均1,700万円、4年で20～30件程度か。

TOPICS-2 宇宙関係

- 国において「人工衛星等の打ち上げ及び人工衛星の管理に関する法律」いわゆる「宇宙活動法」が昨年11月9日成立。今後、民間事業者の宇宙利用の拡大につながる事が期待される。
- こうした中、大樹町の「宇宙のまちづくり推進事業」が11月25日、国の地方創生推進交付金に採択、今年度から平成30年度までの3年間で、多目的航空公園の利活用に向けた地域活性化計画や観光振興戦略の策定、移住定住対策などが進められる。
- 航空宇宙開発により、人工衛星データの活用によるスマート農業など1次産業の発展や関連産業の創出が期待されることから、国などの動向を注視しながら、航空宇宙分野における十勝地域の優位性を活かした取り組みを積極的に進める。



報告 「北海道分県研究会」報告書、高橋はるみ知事に手交

知事定例記者会見 平成28年11月11日
(北海道新聞からの質問に対し)

自民党の喜多議員をはじめ自民党会派の有志の方々から、北海道の分県についての報告書をいただいた。その時喜多議員がおっしゃられていたのですが、北海道というのは大変広大であると、22都府県の面積が入るほどの広さで、そして鳥取県の9倍の人口のこの北海道を考えた場合に、分県に至る前の段階での分権、地方分権をまずは進めるべきという、そういうお話でした。私もその報告書をしっかり勉強をしようと思っています(要約)。

(共同通信からの質問)

先ほど触れましたが、分県については一つのご見識だと思います。ただハードルはなかなか高いかなと思う所で、その意味では道議の皆さま方がそこを究極の目標として捉え、そこに至るプロセスの中で、広大な北海道の中における地方分権、札幌一極集中をいかに是正していくかについて、様々な議論を行ったということをおっしゃられて、そのことは私も道にとっても究極の課題でありますので、しっかりと勉強をさせていただいて、取り入れることができることは我々の政策の考え方の中に反映をしていかなければならない、そのように受け止めているところで、喜多議員も道議会議長を努められた自民党の重鎮でいらっしゃいますので、そのご見識にあらためて敬意を表した次第です(要約)。



2016年 新聞記事

十勝毎日新聞
平成二十八年三月三十日

政治 スポーツ

◆喜多龍一 道議(十勝区)が来社

30日、道議会終了報告で十勝毎日新聞社を訪れた。

道の新年度予算、補正予算では禁止となったロシア2000㏊水域でのサケマス流し網漁対策が十勝にも手厚く、地元の負担もない。

農地パワーアップも5年継続となり、草地造成の農家負担率が40%から30%に軽減された。課題だった帯広警察署もいよいよ着工となる」と評価した。写真。



今後取り組む課題では「宇宙産業基地構想にオー

ル北海道で取り組む体制ができ、今年がヤマ」と強調。「スマートインターチェンジでは、特に音更は道の準備は整っているが、新得とともに新規事業化に向けた準備段階調査を進めることも大きな課題」と述べた。

十勝毎日新聞 平成二十八年十月十三日

防災用テント 18町村に寄贈

来年の50周年控え
十勝測量設計協会

【本別】十勝測量設計協会(熊頭勇造会長、37社)は23日、管内18町村に防災用テントを寄贈した。

同協会は1967年9月に設立。来年50周年の節目を迎え、「災害に強いまちづくり」を基本方針に掲げていることから寄贈を決めた。

テントの大きさは幅、奥



行き各2・1畳、高さ2・3畳。大地震や大雨などの災害時に、体育館や集会所など屋内避難場所に設置し、更衣室や授乳室、トイレとして活用する。

この日は、同協会役員が分かれて18町村役場を訪問。本別町役場では熊頭会長や会員で地元本別の金川秀之十勝測量設計社長らが訪れ、高橋正夫町長にテントを手渡した。同協会の支援者である喜多龍一 道議も同席した。

熊頭会長は「口頭から十勝の皆さんに支援いただいている。少しでも役に立てば」と話し、高橋町長は「ありがたいこと。使い勝手が良いので多目的に活用したい」と感謝の言葉を述べた。同協会では昨年1月に、帯広市にも寄贈しており、防災訓練などで使われている。(鈴木裕之)

寄贈されたテントと(左から)金川社長、高橋町長、熊頭会長、喜多道議

十勝毎日新聞 平成二十八年八月十二日

自民党道議
有志の研究会

北海道「分県」2案示す

均衡ある発展目指す

北海道を複数の県に分ける「分県」議論を進めている自民党の道議有志の「北海道分県研究会」(喜多龍一 会長)は、分県案を示した報告書をまとめた。道央・道南、道北、道東による「3県案」と、北海道(道央・道南・道北)と東北北海道(道東)による「2道(県)案」の2案。分県議論を通して北海道の均衡ある発展を目指す狙いもある。

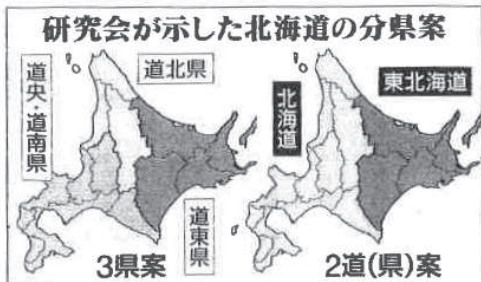
「3県案」と「2道(県)案」

報告書では、他都府県に比べて面積が広く地域特性について分析し、実現の可能性を探った。

分県の形の議論では、面積や人口だけでなく、GDP(国内総生産)や税収といった経済指標を用いて分県後の「自立力」を考えた。その結果、道央・道南、道北、道東の「3県案」か、道東とそれ以外の2つに分ける「2道(県)案」を示した。

ただ、分県実現には特別法の制定や住民投票などのハードルもあると指摘。札幌の一極集中の是正や北海道の均衡ある発展などの課題に対して、分県の視点を持った議論の盛り上がりをも求めている。

同研究会は、道議会の最



新年のご挨拶

喜多龍一 十勝連合後援会
会長 千葉 幹雄

後援会の皆様、新年明けましておめでと〜ご座居ます。

皆様方には、ご家族お揃いでお元気で平成二十九年の新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。

昨年は、十勝の基幹産業であります農業など二次産業が春からの長雨、台風の影響で未曾有の被害を受けました。

一日も早い復旧復興をお祈り致します。

後援会に於きましては、政経セミナーを開催致しました。

皆様方には主旨をご理解して頂き、お蔭様で盛会裏に終了する事が出来ました。

心から感謝申し上げます次第であります。

道議には、道内、管内にはまだまだ諸課題が山積みして居ります。

これから解決の為、全力で頑張ってくれると期待している所でもあります。

今後共、喜多道議、当連合後援会に対しまして、ご支援ご協力を心からお願ひ致しまして年頭のご挨拶とさせていただきます。

自由民主
LIBERAL & DEMOCRATIC

発行所
自由民主党本部
郵便番号100-8910
東京都千代田区永田町1-11-23
電話 東京 03(3581)6211(代表)
振替口座 東京00180-1-19518

自由民主党ホームページ URL <http://www.jimin.or.jp/>

喜多龍一のホームページも是非ご覧ください。
<http://www.kitaryu.com>



リオ・デジャネイロオリンピック出場壮行会

**2016年
活動写真**



豊頃後援会野遊会



新・ご当地グルメグランプリ北海道in大樹



十勝神社350年祭、村瀬町長と



更別村石井祐一氏小豆等の部で農林水産大臣賞祝賀会



足寄町台風被害視察



芽室町台風被害視察

大澤日記
皆さんこんにちは、喜多龍一事務所に来て二年目になりました大澤友記です。

北海道に帰ってきて早一年と数か月がたちまして、この二年間はめまぐるしい行事の連続でしたが、まだまだ半人前以下な自分出来る仕事などそんなにごさいませんので、自分出来ることをコツコツと積み重ねていた二年だったなと、ふと思いつ返す次第でございます。

さて、「今年は何があったかな」と、二〇一六年を振り返って見ますと、オリンピックがあったり台風被害があったりと国内外問わず激動の年でありました。

こと台風に関しては地元十勝も被災地となつてしまい、災害時から一月と数週間は作業服姿の道議とともに十勝全域を四六時中帆走しておりました。

他にもいろいろな出来事がありました。私個人として二つをあげるとすると、「VR(ヴァーチャルリアリティ)」を使ったゲームが発売された事が興味をいただきました。

「VR」と言うのは「仮想現実」に入り込み本場にその場に居るかのような体験を行えると言うもので、たとえて言うとうゲームの世界に入り、その世界の物を触ったり、その世界の中を走り回ったり出来たりするという夢のような道具です。

ゲームだけでなく、ショッピングや医療、教育など、今後さまざまな分野で取り入れられるのではと注目が集まっており、もし家から出ずにVRだけあればさまざまな事が行える未来がきてしまったら、休みの日に余り外に出ない私も今以上に引きこもりが加速してしまいかもかもしれませんね。

…来年は出会いを求めて外に出るようになりませんか。



十勝家畜商業協同組合60周年記念行事